

【環境モデル都市の概要】

我が国全体を低炭素社会に転換していくため、政府として、温室効果ガスの大幅削減など高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジする都市を、「環境モデル都市」として選定し、その実現に向けて重点的に支援することとしています。平成20年7月に、全国の都市からの82件(89団体)の提案の中から、「環境モデル都市」6都市と、「環境モデル候補都市」7都市を選定しました。

※詳細は、「地域活性化統合本部会合」のホームページ
(<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/>) の「『環境モデル都市』の選定結果について」をご参照ください。

『環境モデル都市エコツアー』


国際セミナーにおいて環境モデル都市の取組みに対する有益なアドバイスを国内外の有識者から得るため、国際セミナーの開催に先立つ12月12日(金)～13日(土)の2日間で、国際セミナーへの海外招聘参加者をはじめ有識者の参加者等を対象として、環境モデル都市6都市へのエコツアー(現地視察ツアー)を開催しました。このエコツアーでは、各都市での取組みに関連する視察、現地関係者との意見交換等を行いました。


※このエコツアーは、観光庁との連携により実施したものです。

環境モデル都市国際セミナー・エコツアー2008 実行委員会

(内閣官房(地域活性化統合事務局)、国土交通省、環境省、環境モデル都市(下川町、帯広市、富山市、横浜市、水俣市、北九州市)、財団法人西日本産業貿易コンベンション協会)で構成)

環境モデル都市国際セミナー2008

 日時 平成20年12月14日(日)
午後1時30分～

 場所 北九州国際会議場
(メインホール)

主催:環境モデル都市国際セミナー・エコツアー2008 実行委員会

環境モデル都市国際セミナー2008

～開催趣旨～

「将来の世代」のために、私たちは「低炭素社会」へと大きく舵を切らなければならない時期にさしかかっています。この低炭素社会づくりに向けて、地方公共団体を中心に地域レベルで市民や地元産業界を巻き込む具体的な取組みの議論が始められており、社会の変化に向けた大きなうねりが起きつつあります。

低炭素社会づくりに向けた「環境モデル都市」の取組みを広く普及し、国内外への情報発信を行うとともに、国内外の専門家から有益なアドバイスを得ることを目的として、国及び「環境モデル都市」として選定された6都市、そして海外の先進的な環境都市が一堂に会し、「環境モデル都市国際セミナー2008」を開催します。

13:30～ 開会挨拶

13:55～ 基調講演

～演題～

低炭素社会の構築に向けた環境モデル都市構想の推進について



村上 周三氏 慶應義塾大学教授

地球温暖化問題に関する懇談会 環境モデル都市・低炭素社会づくり分科会 座長
日本建築学会会長、国土交通省中央建築士審査会会長などを歴任。人間・建築・都市に関する各種環境を対象として、実験と計算流体力学を利用した解析とデザインを研究。
さらに、これらの手法を活用してサステナブルビルディングに関する研究を精力的に行うほか、地球環境問題にも研究の幅を広げている。

14:15～ 環境モデル都市の取組み紹介

【環境モデル都市からの参加者】



下川町
町長 安齋 保氏



横浜市
副市長 阿部 守一氏



帯広市
市長 砂川 敏文氏



水俣市
市長 宮本 勝彬氏



富山市
市長 森 雅志氏



北九州市
市長 北橋 健治氏



【環境モデル都市6都市の概要】

- 下川町 **北の森林共生低炭素モデル社会・下川**
・育ちの早いヤナギ栽培で炭素固定。燃料に活用 ・公共施設の集中立地を生かし地域熱供給施設導入
- 帯広市 **田園環境モデル都市・おびひろ**
・木質、牛ふん堆肥等の灯油代替燃料化 ・不耕起栽培による農機の燃料削減や土壌中へのCO2貯留促進
- 富山市 **富山市コンパクトシティ戦略によるCO2削減計画**
・路面電車ネットワークで自動車依存度を低減 ・公共交通沿線に住み替えを誘導、都市機能を集積
- 横浜市 **知の共有・選択肢の拡大・行動促進による市民力発揮で大都市型ゼロカーボン生活を実現**
・供給事業者設立などで再生可能エネルギー普及率を2025年までに10倍に拡大
・一定水準以上の省エネ住宅への経済的インセンティブ付与
- 水俣市 **環境と経済の調和した持続可能な小規模自治体モデルの提案**
・市民の協力によるごみの22分別と、それによる高品質リサイクル ・地域の未利用資源である竹等をバイオ燃料化
- 北九州市 **アジアの環境フロンティア都市・北九州市**
・先進技術を活かした「低炭素200年街区」の整備 ・工場未利用熱を周辺地域に供給

15:15～ 海外の環境都市の取組み紹介

【海外の環境都市からの招聘参加者】



フライブルク市(ドイツ) ウルリッヒ・フォン・キルヒバツ八副市長

テュービンゲン大学にて法学を専攻、1985年に司法試験合格。1988年7月から、フライブルク市の利水管理関係の部署に勤務し、以降、上級行政参事官、ラシュタット郡庁環境部門責任者、フライブルグ市行政長官を歴任した後、2002年4月にフライブルク市副市長に選出。



マルメ市(スウェーデン) カリーナ・ニルソン副市長

公衆衛生修士課程修了、作業療法士、養護教諭。作業療法士として地方公共団体で活躍する傍ら、ルンド大学で教鞭を執る。その後、公衆衛生士としてマルメ大学病院に勤務。環境問題をはじめ様々な委員会の委員を歴任し、2008年にマルメ市副市長となる。



ポートランド市(アメリカ)デヴィッド・ブラグドン ポートランド・メトロ(都市圏)行政府評議会会長

ハーバード大学卒業後、物流業界等で多くの実務経験を経る。ポートランド港湾局に勤務後、1998年にポートランド・メトロ行政府の評議員に選出。2002年から2期にわたり同行政府の評議会会長を務め、持続可能な地域づくりのために、行政府、NPO、産業界及び一般市民と協働。自然保護、廃棄物リサイクルなどに精力的に取り組む。

【海外招聘都市の紹介】

《フライブルク市:ドイツ》

交通対策、エネルギー対策、廃棄物対策等を総合的に進めながら、街づくりを進める都市。交通環境政策として、1984年から旧市街地への車の乗り入れの原則禁止を実施する。また、市電駅前に無料駐車場を整備し、パーク&ライドやカーシェアリングを推進している。他に、「地域環境定期券(レギオカルテ)」を発行し、公共交通機関の利用促進を進めている。

《マルメ市:スウェーデン》

1970年代の石油エネルギー利用の依存から脱却し、現在は50%以上が再生可能エネルギーである。港湾地区の開発における 環境 設計モデル地域においても、環境に配慮した集合住宅モデルの整備や再開発を進めている。

《ポートランド・メトロ(都市圏)行政府:アメリカ》

ダウンタウンの再生と成長管理計画で人と環境に優しい都市づくりを進めている。特に、ライトレール等の公共交通の整備、公共交通機関と連携した土地利用計画、徹底した市民参加と成長管理計画により、街は劇的に再生。

15:45～ 休憩

16:00～18:00 パネル・ディスカッション

～テーマ～

環境モデル都市の取組みの拡充に向けて

環境モデル都市6都市及び海外招聘3都市の取組状況をもとに、国内外の有識者の参画を得て、環境モデル都市の取組みの拡充・普及に向けた方策等を探ります。また、会場参加者との質疑応答を行います。

コーディネーター

藤田 壮氏(東洋大学工学部教授)

パネリスト

石田 東生氏(筑波大学大学院教授)

クラウス・ホツベ氏(フライブルク市 エネルギー局長(兼市営廃棄物処理所長))

カリーナ・ニルソン氏(マルメ市副市長)

デヴィッド・ブラグドン氏(ポートランド・メトロ(都市圏)行政府 評議会会長)

北橋 健治氏(北九州市長)

18:20～ 市民交流会(イベントホール)